

2016年

春の課題作文優秀作品

【小学部】

十日市場校 T・Rさん（十日市場小）

アメリカ大統領候補のトランプ氏の発言はよくないと思う。トランプ氏の発言には、このようなものがある。

「アメリカに来るメキシコ人は犯罪者だ！だからアメリカに入れるな！」や、「イスラム教徒のアメリカへの入国は禁止するべきだ！」などだ。この発言は、人の心を傷つけ、差別という悲劇を招く原因になると私は考える。メキシコ人の立場で考えてみると、国が不法入国や麻薬密輸に直面している中で、悪いことを何もせずに幸せに暮らしている人も犯罪者と言われているようである。

私の学級では、朝の会に「日直のニュース」というものがある。「日直のニュース」とは、自分が一番心に残った、気になった最近のニュースを発表し、そのことについて自分の意見を述べるというものだ。最近では、熊本地震の話題が多い。皆の意見は「もう二度と、こんな被害が起きてほしくない。」や、「行方不明の人達を、もっと早く救助してほしい。」などだった。この表現の自由を生かしている発言は、地震の恐ろしさや、被災者に対しての思いを、改めて感じさせてくれた。人を傷つけなければ、過激な発言でなければ、表現の自由だつてうまく使えるのではないだろうか。

私が考えたこと、それは必要以上の発言や、人を傷ついたり差別を招いてしまったりする言葉はひかえ、表現の自由をうまく使っていけるような国際社会になっていってほしい、ということだ。トランプ氏は、メキシコの移民を防ぐために、国境に万里の長城を建設するとまで言っている。そんなことをしたら、国が国を遠ざけ、国が国をきらい、平和が乱れ、戦争になり、多数のぎせい者が出てしまうかもしれない。そんな恐ろしい未来でよいのだろうか。私達が平和に生きていくためには、一人一人の発言の意識が必要なのではないだろうか。

鶴川校 K・Kさん（三輪小）

私は、表現の自由に規制をかけることに賛成か反対か、すぐに答えを出すのは難しいと思いました。なぜなら、自分の意見はきちんと発言しなければいけない一方で、相手を傷つけることは言ってはいけないからです。

ある日、私は仲の良い友達と遊ぶ約束をしました。友達は外で遊びたい、私は家で遊びたいと意見が分かれてしまいました。そのとき私が何も意見を言わなかった場合、全て友達の言うとおりになり、私は楽しくなくなってしまいました。逆に、私の意見ばかり言ってしまった場合、友達は傷ついてしまい、私の一方的なわがままになってしまいます。だから、嫌だということをはきちんと相手に伝えなければいけないと思います。そして、きちんと自分の意見を伝えた上で、二人が納得いくように、話し合えばいいと思います。

資料のアメリカ大統領選挙の立候補者であるドナルド・トランプ氏の発言について、私はメキシコ人とイスラム教徒の人を差別していると感じます。しかし、もし私がアメリカ人の立場だったら、賛同してしまうかもしれません。それは仕方がないことかなと思います。なぜなら、アメリカ国民は安心して生活ができることを望んでいるからです。また、資料の「保育園落ちた日本死ね！」について、私は危険で使ってはいけない言葉だと思いますが、母親たちの怒りが強く伝わる言い方だと思います。

私は、妹とけんかをして、意見を言わずに我慢をした経験が何度もあります。そのとき、私は悔しい思いをしました。何回言ってもやめてくれないときは、つい手を出したり、意地悪な言葉を言ったりしてしまい、後悔をします。お母さんやお父さんに相談すれば良かったと思います。

私は表現の自由は必要ですが、相手を傷つける言葉は絶対に言うてはいけないと考えます。表現の自由に規制をかけること。それは、答えが出ないテーマだと思います。

【中学部】

センター北校 W・Mくん（中川中）

私は表現の自由を守ることによって精神的苦痛を受ける人がいるなら、表現の自由よりも被害者の人権尊重を優先すべきだと考える。法律というのは、人間が出来る限り平和にそして快適に暮らすためのものだと思う。それなのに、不幸になる人が多くなる選択をするのは本末転倒である。よって、私は、「ヘイト・スピーチ」もトランプ氏の過激な発言もその他の差別的発言も、認めることができない。トランプ氏の例を挙げて言うなら、勝手にメキシコ人やイスラム信仰者全てを犯罪者扱いして入国を禁止するなど身勝手にもほどがある。こんなことを認めるのは間違っている。

しかし、過激な発言が全て悪いわけではない。過激な発言による強い表現は使い方によってはとても効果的で、自分の気持ちを伝える際に大きな武器となる。この有効な表現方法を規制することは正しいことなのだろうか。

小学校の学級会であったことだが、学級レクやスローガンを決める時、何故かその場の「空気」が圧力となり、みんなが意見を出さなくなることがあった。早く学級会を終わらせたいのか、発言者を睨むような人もいた。この空気による発言規制の状態が学級レベルで起きても、嫌なことが増すだけだろう。それならば、これが国家レベルで起きたらどうだろう。発言が封じられて政権が暴走し、紛争や戦争につながることもあるかもしれない。そう考えると、やはり表現の自由に規制をかけるべきではないというのが私の結論だ。

表現の自由を守ることも個人の尊厳を守ることもとても重要だ。強い表現に限らず、言葉は自分の意思を伝えるのにとっても便利である。しかし、それと同時に使い方を間違えれば、人を傷付ける諸刃の剣にもなる。だから、必要に迫られない限り強い言葉を使わず、その場に合った言葉で表現する。これが今私たちに必要なのではないだろうか。

十日市場校 S・Dくん（十日市場中）

私は表現の自由に規制をかけることに条件付きで賛成だ。なぜなら、表現の自由に規制をかけた時も、かけない時も、どちらも今まで失敗してきているからだ。第二次世界大戦中に、人々は表現の自由に規制をかけすぎたことを後悔し、それを改善して発言の機会を増やし、国民に自由を与えたのが現在である。その結果、現在はどうかだろう。

資料のアメリカ大統領選の立候補者であるドナルド・トランプ氏の過激な発言、また保育園に子供を預けることができなかった母親の発言、どちらも全否定することは難しいが、明らかにこの発言を聞いた人を不快にするような、決して認められるべきものではないのは確かだ。今を生きる私たちが、このことから教訓を得ずに見過ごしてよいはずがない。

私は以前、友人から「走るの遅いね。」と言われ、傷ついた経験がある。この友人の発言は、たとえ悪気がなかったとしても、事実だったとしても、言われた相手の気持ちなど何も考えていない無責任なものだと思う。やはり人には言っていないことと悪いことがあるのだ。表現の自由が許される現在の社会だからこそ、自分の言論には必ず責任が必要になってくるのではないだろうか。

過去の表現の自由の過度な規制と、現在の表現の自由の過度な放任。そうすると次は、適度な規制が必要となってくるのではないかと私は考える。

|| 特別賞 ||

中山校 S・Yくん (中山中)

「表現の自由」とは、思想・意見・主張・感情などを表現する権利のことである。言語・芸術・楽曲などその手段は様々である。例えば、言語―。人々が自分の意見を主張できるということは、新しい考えや意見を生み、自己の成長だけでなく、時には社会にも大きな影響を与えることがある。最近では熊本地震の支援の輪がその例である。

震災発生当初から、マスコミが現地の状況をいち早く取材・報道したことで、私達は被災地の現状を知ることができた。「今、どこで何を必要としているのか。」被災者の生の声を聞いたことによって、全国に支援の輪が広がり、たくさんの救済物資やボランティアが集まった。

しかしその一方で、過熱する報道合戦が、救済物資の搬入を妨げたり、疲れ切った被災者へ執拗に取材したりするなど、「表現の自由」の名のもとで行われる心ない行為、目に余る行為はいかなるものか。これはマスコミが、憲法で保障されていると主張する「表現の自由」といえるだろうか。

確かに、何かを変えたい、誰かの力になりたいという思いを言葉にして発信することは有効な手段である。しかし、その使命感が、自己中心的な感情を制御できなくなったとき、そこから、「自由」を盾にしたモンスターが生まれる。

僕は「表現の自由」を法律で規制することには賛成できない。だが、「表現の自由」を理性で制御することは絶対に必要だと思う。

長津田校 S・Kくん (田奈中)

課題文を読み、内容を要約してみた。まず、刺激の強い発言は、一種の表現の自由であり、それを侵害するのは間違っているということ。また、それらは、一部の人々の本音であるため、政治を動かす原動力になるのだから必要という意見。それに対し、過度な発言による精神的な被害を出すので不要という意見が対立している。ただ、現在は、法律が明確ではないという話だ。私はこういったものを目にするのと、まず双方の着目点が違うだろうと考えている。肯定派が言っていることは、いわば法律的な規則上の話。一方で、否定派は被害者の身を案じている感情的な話。お互いの意見する議題は同じだが、着目点が全く異なるせいで、話がまとまるはずがないのだ。もし、この話に決着をつけたいのであるならば、発言に対しての賛成、反対ではなく、こういった議題全てにおいて、優先すべきことを明確に定めることが必要だろう。

さて、ここから私の意見を述べさせてもらおうと、個人的に優先するべきは、規則等ではなく、感情の方であると考える。理由は非常に簡単だ。法律はよく変わる。数十年や数年といったところだろうか。対して、感情はどうだろうか。

周囲の環境による考えの違いはあるものの、基本的な喜怒哀楽といったものは変化し続けることはなく、大昔からそのままなのだ。要するに感情は、人間が生きる上で非常に大切なものと言えるのではないだろうか。だから何か別のものであっても、感情と比べた時、その中で一番に優先するのは感情であることが必然であるのだ。

あくまでも私が言いたいのは、着眼点の話であり、それを考慮した上で、ヘイトスピーチをはじめとした危険な表現が必要というのであれば、私はそれでも構わない。ただ、優先事項を変えることに賛成はできない。なぜなら、感情以外を優先させる事があった場合、それは人間らしさに欠ける行為ともいえるからだ。